

令和4年度（2022年度）

（令和4年7月1日～令和5年6月30日まで）

事業報告書

一般財団法人 国際協力推進協会

1. 太平洋島嶼国開発協力事業

- (1) 太平洋諸国・大学生招待計画【延期】
- (2) 太平洋諸国・記者招待計画【実施】
- (3) 太平洋諸国・リーダー招待計画【延期】
- (4) 太平洋青年研修【延期】
- (5) 太平洋諸国・環境セミナー【延期】
- (6) APIC・MCT 協力事業（上水道整備支援）【実施】
- (7) APIC・MCT 協力事業（大学院生支援）【実施】
- (8) 上智大学 Island Sustainability 研究所との共同事業【一部実施】
- (9) ナンマトル遺跡保存支援事業【予備費実施】

2. 日・カリブ友好協力事業

- (1) 西インド諸島大学・大学生招待計画（太平洋と同時）【延期】
- (2) カリブ諸国・記者招待計画（太平洋と同時）【実施】
- (3) カリブ諸国・リーダー招待計画【実施】
- (4) 西インド諸島大学・学長招待計画【実施】
- (5) カリブ青年研修【実施】
- (6) 上智大学 Island Sustainability 研究所との共同事業【延期】
- (7) 日本語スピーチコンテスト支援【予備費実施】

3. 国際協力に関する講演事業

- (1) APIC 国際情勢早朝講演会
- (2) 国際協力懇話会

4. 留学生奨学金事業

事業の概要

1.太平洋島嶼国開発協力事業

(1) 太平洋諸国・大学生招待計画【延期】

毎年 1 月に太平洋諸国から数名の大学生を招待し、上智大学の短期プログラム **January Session in Japanese Studies** に参加させ、併せて APIC による文化交流活動事業などを実施してきており、本年度も実施予定であったが、**January Session** がオンライン実施となったため、日本に対する理解を深めるには、やはり日本での対面授業が効果的であるという観点から、対面で予定されている 2023 年 7 月実施の **Summer Session** へ参加させることとし、次年度へ延期することとした。

なお、本事業は、日・カリブ友好協力事業の西インド諸島大学学生招待計画と趣旨が同じであることから、一体の事業として実施しており、異なる地域の学生が一堂に会して学び、共に生活し、意見交換を図ることができるシナジー効果もあり、参加者からは貴重な経験ができたという高い評価を得ている。また、これまでの参加者のうち 3 人が日本の大学院に留学し、1 名が JET プログラムにより熊本県の高校で英語を教えるなど、大学関係者のみならず現地の議員や大使館からも日本との友好関係に大きく貢献する事業であると高い評価を得ている。

(2) 太平洋諸国・記者招待計画【実施】

毎年 10 月頃に(公財)フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施しているもので、太平洋の記者を招待し、カリブ諸国・記者招待計画と一体の事業として、有力記者を招待して、我が国の環境保護、防災、エネルギー利用などについて理解を深めてもらい、我が国の現状についての広報をそれぞれの国で行ってもらうものである。プログラムコーディネーターとして、フロイド・タケウチ氏とドーン・マタス氏の 2 名にも本計画に参画してもらっている。本年度は、太平洋からは記者 3 名（フィジー、ソロモン諸島、サイパン）を招待した。

内容としては、首都圏においては、外務省、JICA、WOTA 株式会社、横浜市民防災センターを訪問しブリーフィングを受け、東京都労働局のブリーフィングと”HARUMI FLAG”の開発の様子を視察した。地方では、鹿児島県清港、大崎町及び桜島を訪問し、ごみの処理方法や廃棄物処理システム、桜島防災モデルなどを視察、宮城県にて震災遺構等を視察した。視察した内容について、各記者が訪日中及び帰国後に新聞、インターネット等で配信した。

(3) 太平洋諸国・リーダー招待計画【延期】

COVID-19 による渡航制限の解除が進まないことから、具体的な招待計画を策定することが難しく、次年度に延期することとし、今年度は実現出来なかった。

(4) 太平洋青年研修【延期】

サモア独立国とミクロネシア連邦チューク州より、将来を担う若手の実務者を我が国に招待し、自治体中心に研修を行う予定であったが、COVID-19 の影響で具体的な招待計画の策定まで至らず、来年度以降に延期することとした。

(5) 太平洋環境セミナー【延期】

COVID-19 の影響で渡航計画が立てられず、派遣する講師の予定も考慮して、次年度に延期することとした。

(6) APIC・MCT 協力事業（上水道支援プロジェクト）【実施】

今年度は MCT から下記 2 件の要請があったため実施した。

①ミクロネシア連邦ポンペイ州キチ地区チャマラロン村の配水管取り換え工事支援

チャマラロン村は、近くにおおきな川が流れておらず、小さな湧き水が唯一の水源となっており、老朽化した金属製のパイプを PCV のパイプに交換するもの。この取り換え工事により、対象となった村(住民約 800 人)の各家庭に毎週少なくとも、1,000 ガロンの水を供給することができ、住民に対して、長期持続的に安全な水が提供することができる。

MCT へ 1.12 万ドルを送付し、MCT に配水管の調達と取り換え工事を委託した。工事終了後に配水パイプ等の購入の領収書、収支報告書、完成後の写真を受領し、APIC の HP に掲載した。

②ミクロネシア連邦チューク州オネイ地区 貯水タンク設置事業

チューク州のオネイ島には、8 つの村があり、住民 838 人が住んでいるが、飲料水を雨水に依存しているため、貯水タンクを設置して安定的な水の確保を図ろうとするもの。1000 ガロンの貯水タンクを各村に設置（計 8 基）するもので、州都のチュークでタンクを調達して、住民がオネイに搬送、設置しようとするもの。全体で、2 万ドルの要請があったが、上記①と合わせて本年度予算計上の範囲内での支援を行うこととし、今年年度で 1 万ドルの支援、来年度で残りの 1 万ドルを支援することとした。

上記と同様に、MCT へ 1 万ドルを送金し、MCT が貯水タンクを調達して、現地に搬送し、住民の参加を得ながら設置する予定。

(7) APIC と MCT との協力事業（大学院生支援）【実施】

APIC とミクロネシア自然保護基金（Micronesia Conservation Trust : 以下 MCT）との連携協定に基づき、MCT の推薦により毎年ミクロネシア 3 カ国から留学生 1~2 名を受入れ、上智大学大学院地球環境学研究科で修士号を取得させるプログラム。長期的観点から環境関連に携わる人材の育成支援を目的としており、2017 年のプログラム開始以降、既に 7 名が卒業、現在では 3 名の学生がそれぞれのテーマを持ちながら、研究を行っている。2023 年 9 月に 2 名が卒業し、1 名が入学予定となっている。

(8) 上智大学 Island Sustainability 研究所との共同事業【一部実施】

上智大学が、2022 年央に島嶼部や島嶼国が良質な発展を遂げられるスキームの創成を目指し国内外を対象としたシンクタンク機能を有する Island Sustainability 研究所を設立した。この研究所の活動にあたり、国際機関、政府関係機関、国内外企業、法人、国外の著名連携大学によるコンソーシアムを形成することを企図しており、APIC もこれまで環境セミナーは上智大学の協力を得ていることから、同計画を支援する予定で、今年度は、太平洋島嶼国からのゲストを呼んで島根県海士町で開催するシンポジウムの検討のため、事前視察を実施した。

(9) ナンマトル遺跡保存支援事業【予備費実施】

ユネスコ世界遺産に登録された FSM ポンハイ島のナンマトル遺跡について、外務省の草の根無償によるビジターセンターの建設の起工式が 2020 年 5 月 24 日に行われ、建設完了後に案内板の設置について支援を行う予定であったが、ビジターセンターの建設工事が、長引いたため、案内板の製作・設置もずれ込み、令和 3 年度決算後に完成し、設置費用について着手のための頭金（半額）を令和 3 年度の前払金として計上し、令和 4 年度に支払った残金を含めて、全額を本年度に計上した。

2. 日・カリブ友好協力事業

(1) 西インド諸島大学・大学生招待計画【延期】

毎年1月に西インド諸島大学（UWI）の学生を太平洋諸国の大学生と同時に招待しているが、太平洋事業同様、延期することとした。（内容は、太平洋事業(1)参照。）

(2) カリブ諸国・記者招待計画【実施】

毎年10月頃に(公財)フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施している。本年は、カリブの記者2名（ジャマイカ、バルバドス）を招待し太平洋諸国・記者招待計画と一体の事業として実施した。（内容は、太平洋事業(2)参照。）

(3) カリブ諸国・リーダー招待計画【実施】

本年は、以下の2グループ、合計7名を招待した。

①ジャマイカ農業・漁業大臣（同行者2名）

2022年10月11日から17日にかけてジャマイカのパーネル・チャールズジュニア農業・漁業大臣を招待した。大臣には、農業・漁業省のダーモン・スペンス事務次官及び水産庁のガビン・ベラミー長官が同行した。大臣の訪日は、10月12日～14日に東京ビッグサイトで開催された”SCAJ2022: World Specialty Coffee Conference & Exhibition”（コーヒーに特化したイベントとしてアジア最大の国際見本市）に出席もできるというタイミングで実施し、水産業とスマート農業に力を入れたいとするジャマイカ側の要望に応じた日程を組み、外務省政務官、農水省副大臣表敬のほかは、丸紅株式会社とのワーキングランチ、横浜の国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所、千葉の勝山漁協（養殖の視察）、千葉大学柏の葉キャンパス（植物工場）の視察などを行った。駐日ジャマイカ大使も、すべての会合視察に同行した。

②バルバドス若手リーダー4名

2022年11月13日から21日にかけて、バルバドスの環境保護関係の政府高官、研究者、環境保護団体の責任者を招待した。参加者は、環境・国土美化省ブルーグリーン経済庁水産局長のジョイス・レスリー女史、西インド諸島大学ケープヒル校の資源管理・環境研究上席研究員兼シニア講師のパトリック・マッコニー博士、ブルーシェル・プロダクションの創設者・最高経営責任者のシェリーアン・コックス博士、バルバドス環境保護協会最高責任者のチェ・グリニッジ女史の4名です。本招待は、在バルバドス日本大使館の要請に基づくもので、上智大学大学院地球環境学研究科のまくどなるど教授とのラウンドテーブルでの意見交換を皮切りに、横須賀では国立研究開発法人海洋開発機構（JAMSTEC）および神奈川県海洋科学高校を訪問、三重県に移動して三重県水産研究所視察、海女小屋体験、エコツアー参加と海洋・水産関連の視察を重点に行い、最後に伊勢神宮にお参りして、京都に移動し、文化体験として京都の神社・仏閣巡りを行った。

(4) 西インド諸島大学・学長招待計画【実施】

過去に西インド諸島大学(UWI)の副総長(実質的なトップ)及び各分校(ジャマイカ、トリニダード・トバゴ共和国、バルバドス)学長3名を同時に招待する予定があったが、日程の調整が難しいため、順次実施することとし、平成28年度にケープヒル校(バルバドス)学長、平成29年度にセント・オーガスティン校(トリニダード・トバゴ共和国)学長の招待計画が実現している。

本年度においては、2023年4月12日から18日にかけて、ケープヒル校のロバート・クライヴ・ランデイス学長を招待した。UWIと上智大学が教育連携協定を締結していることから、上智大学で講演を行ったほか、学長が医者であることから、慶應義塾大学医学部や京都大学 iPS 細胞研究所も訪問し、研究者と意見交換も実施。ご夫妻で来日され、庭園にも関心があるということで、東京と京都で庭園や植物園の見学も実施。ケープヒル校の学長招待は今回が2回目である。

(5) カリブ青年研修【実施】

2023年6月25日から7月2日にかけてトリニダード・トバゴ共和国の政府関係者と廃棄物処理担当者4名を招待した。トリニダード・トバゴは廃棄物処理の問題、特に埋め立て処分場の残余年数が逼迫する課題を抱えており、日本におけるごみ処理について研修を行った。都内では練馬区の焼却施設、食料廃棄物の飼料化を行っている民間企業の視察、大崎町(鹿児島)では大崎町とSDGs推進協議会の協力の下、リサイクル日本一の廃棄物処理とリサイクルのプロセスについての成功事例の視察を実施。大崎町研修には本計画を要請した平山前駐トリニダード・トバゴ大使も同行し、大崎町長表敬なども実施し、地元メディアからも取材を受けた。

(6) 上智大学 Island Sustainability 研究所との共同事業【延期】

趣旨は太平洋事業(8)と同じ。カリブ事業としては、延期とした。

(7) 日本語スピーチコンテスト支援【予備費実施】

下記、2件のコンテストを支援した。

①トリニダード・トバゴ共和国

2022年9月30日に、在トリニダード・トバゴ日本国大使館・西インド諸島大学(UWI)セント・オーガスティン校言語学習センターとの共催で実施された第5回日本語スピーチコンテストに、昨年同様、協賛という形式で、現地の日本食レストランのギフト券を賞品として提供し、支援を行った。コロナ禍以降初となる対面形式での開催で、大変賑わいのある大会となった。

②ジャマイカ

2023年6月17日に、在ジャマイカ日本国大使館・西インド諸島大学(UWI)の共催で実施された日本語スピーチコンテスト2023に、協賛というかたちで、コンテストの賞品として日本語の本や日本文化に親しんでもらえるグッズ支援を行った。当日は渥美恭弘在ジャマイカ日本大使、ウィリアムズ教育・青年大臣が出席したほか、60名ほどの観客があった。

3. 国際協力に関する講演事業

(1) APIC 早朝国際情勢講演会

令和4年度は下記の通り、外務事務次官、外務審議官、局長クラスの幹部を講師として招き、国際情勢、外交、経済に関する講演と意見交換会を会場とオンラインで実施した。

回数	開催日	講師役職	氏名	演題
386	2022年 7月21日	外務審議官（経済担当）	鈴木 浩	G7 エルマウ・サミット ―成果と展望―
387	9月8日	外務省前アフリカ部長	米谷 光司	日本のアフリカ外交と TICAD 8
388	10月20日	外務省 中東アフリカ局長	長岡 寛介	最近の中東・北アフリカ情勢と日本
389	11月17日	外務省 軍縮不拡散・科学部長	海部 篤	日本の軍縮・不拡散外交をめぐる 最近の動きと今後の展望
390	12月15日	外務省 総合外交政策局長	市川 恵一	国際情勢と日本の外交安全保障
391	2023年 1月19日	外務事務次官	森 健良	2023年の日本外交 ―課題と展望―
392	2月16日	外務省中南米局長	小林 麻紀	最近の中南米情勢と日本の外交
393	3月16日	外務省北米局長	河邊 賢裕	中間選挙後の米の情勢 と今後の日米関係等
394	4月20日	前駐シンガポール 特命全権大使	山崎 純	シンガポール情勢と日本・シンガポール 関係等―勤務を顧みて―
395	5月20日	前駐フランス共和国 特命全権大使	伊原 純一	最近の仏事情と日仏の違い ―仏に在勤して感じたこと―
396	6月15日	外務省経済局参事官	大河内 昭博	G7 広島サミット―成果と展望―

(2) 国際協力懇話会

3年振りとなる不定期開催、少人数を対象とした国際協力懇話会を国際文化会館にて3回実施した。

回数	開催日	講師役職	氏名	演題
13	2022年 11月29日	東京大学教授 JICA 緒方貞子平和開発研究所 所長（当時）	高原 明生	中国共産党大会と 今後の中国の行方について
14	2023年 4月7日	外務省 国際協力局政策課長	上田 肇	我が国の開発協力の現状と主要課題
15	6月19日	駐大韓民国特命全権大使	相星 孝一	最近の韓国情勢と日韓関係

また、2022年10月3日、地方開催として島根県隠岐郡海士町隠岐國学習センターにて島根県立隠岐島前高校の生徒などを対象に「第3回国際講座夢ゼミ」を開催、APIC理事の村上洋 元東レ株式会社取締役を講師として実施した。本講座は、2019年10月に海士町と締結した連携協定の事業の一環としてのものである。

4. 留学生奨学金事業

ザビエル高校(ミクロネシア連邦チューク州)は、ミクロネシア連邦のみならず、パラオ、マーシャル諸島の最優秀の生徒が入学する高校で、イエズス会が運営。同高校は、ミクロネシア連邦のモリ元大統領を始めそれぞれの国のリーダーとなっている卒業生を多く輩出している。かかる状況に鑑み、APICが上智大学と協力して開始した本件「留学生制度」については、3カ国の首脳の間で極めて高い評価を得ている。

当該留学生協定に基づき、2014年から留学生の支援を開始、既に6名の卒業生を出し、現在1名の学生が在籍している。2023年9月にはミクロネシア連邦ポンペイ州とパラオ共和国からそれぞれ1名の留学生が入学予定である。APICとしては今後も募金活動を積極化するとともに、留学生に対する生活費等の支給を含め留学の支援を行っていく。

(なお、APICは旅費、生活費を負担、上智大学は学費、寮費を負担。)

以上